

醍醐寺

醍醐寺は、京都市の南東部にある仏教寺院です。874年に聖宝（832-909;死後理源大師として知られる）によって設立されました。聖宝は、密教の真言宗を確立した空海（774-835;死後、弘法大師として知られる）の修道僧および孫弟子です。伝説によると、聖宝は聖なる水が湧き出る場所に導かれそこに醍醐寺を建立したと言われています。

今日、醍醐寺は笠取山に広がり、京都の最も古い建造物である五重塔があります。寺院は3つの部分に分かれています。山の下部には、醍醐寺の主要な建造物群を成す寺院やお堂が立ち並ぶ下醍醐、および醍醐寺の僧侶の住居である三宝院があります。山の頂上には上醍醐と呼ばれる、聖宝がはじめに醍醐寺を建てた場所があります。博物館である霊宝館には、何千もの貴重な文書や仏像、絵画を含む非常に数多くの国宝が保管されています。

今日、醍醐寺は宗教的にも文化的にも重要です。醍醐寺は真言宗醍醐派の主要な寺院であり、1994年からユネスコの世界遺産に登録されています。醍醐寺という名前は、最も純粋な本質を意味する日本語の「醍醐味」からきており、山の泉の水の味を表現するために用いられました。

醍醐寺は皇室に支援されてきました。敬虔な仏教徒だった醍醐、朱雀、村上の3人の天皇のもと、897年から967年の間に開発、拡張されました。応仁の乱による火災や自然発生した災害などで寺院は荒廃しましたが、日本全国の多くの寺院を修復したことで知られる武将で天下を統一した豊臣秀吉(1537-1598)によって16世紀に修復されました。